

00	09	03	002	永年保存	起案	平成 年 月 日	決裁	平成 年 月 日
議長	副議長	事務局長	次長	主査	主査	担当	文書取扱主任	

第10回 市立病院建替計画等調査特別委員会 会議録

開催年月日		平成20年1月30日(水曜日)	開会：10時00分	閉会：11時09分
開催場所		第一委員会室		
出席委員		井上、山木、渡辺、酒井、本間、山口、荒木、堀、田村 議長、委員外議員～窪之内、水口	事務局	飯沼事務局長
				田湯副主幹
欠席委員		なし		寿崎主任主事
説明員		別紙のとおり		
議件		別紙のとおり		
議 事 の 概 要	1 調査事項について			
	次の事項について、所管から説明を受け、質疑を行い、すべて報告済みとした。			
	(1) 滝川市立病院改築工事実施設計委託業務の変更について			
	(2) 住宅・建築物耐震改修等事業補助金関連調査業務の実施について			
	(3) プロット図について			
	2 その他について			
	委員長より議員会で苫小牧市立病院を視察することについて報告があった。			
	3 次回委員会の日程について			
	正副委員長に一任することとした。			
	上記記載のとおり相違ない。市立病院建替計画等調査特別委員長 井上正雄 ㊞			

平成20年1月25日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘

市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席について

平成20年1月15日付け滝議第164号で通知のありました市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

会計管理者兼理事	谷田部 篤
市立病院事務部長	東 照 明
市立病院事務部事務課長	鈴 木 靖 夫
市立病院事務部事務課改築準備室長	菊 井 弘 志
市立病院事務部事務課改築準備室主幹	田 中 武 雄
市立病院事務部事務課改築準備室副主幹	配 野 英 夫
市立病院事務部事務課改築準備室主任主事	佐 藤 智 人
市立病院事務部事務課改築準備室主任主事	横 田 和 典

(総務部総務課総務グループ)

第10回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H20.1.30(水)10:00～

第一委員会室

○開 会

○委員長挨拶(委員動静)

1. 調査事項について

- | | |
|--------------------------------|------|
| (1) 滝川市立病院改築工事実施設計委託業務の変更について | (資料) |
| (2) 住宅・建築物耐震改修等事業補助金関連調査業務について | (資料) |
| (3) プロット図について | (資料) |

2. その他について

3. 次回委員会の日程について

○閉 会

第10回 市立病院建替計画等調査特別委員会会議録

H20. 1. 30 (水) 10:00～

第一委員会室

開 会 10:00

委員動静報告

委 員 長

全員出席。議長出席。委員外議員～窪之内、水口。空知新聞社、建設新聞の傍聴。

1 調査事項について

(1) 滝川市立病院改築工事実施設計委託業務の変更について

菊井室長

(別紙資料に基づき説明する。)

12月の議会で350万円を補正したのは、昨年の建築基準法改正に伴い地盤調査が必要になったことからである。実施設計を委託している山下設計・ドーコンに対して地盤調査を変更契約で行いたいというものである。

委 員 長

説明が終わった。質疑はあるか。

山 口

砂川市立病院も契約をしてから大きな額の変更をしている。滝川はないと思っていたが、建築基準法の改正によるものでやむを得ないと思う。実際に一度契約して期間的に結構かかる作業であることから資材の高騰も考えられる。基本的に随意契約になってしまっているので、いろいろな変更があれば当然契約変更することになる。今後も報告ということで行くのか。

東 部 長

新聞報道によると砂川市立病院の増額というのは、建設資材の高騰、設備の変更など建設工事そのものを増額するというものである。滝川市は建設工事については、基本計画で示した額を上限とすることで実施設計をしているところである。ただ新聞報道では鉄骨などかなりの値上げ傾向が出てきているので、若干危惧をしているが、何とか上限額の中で進めることで業者と折衝していきたいと考えている。今回の増額については、前回の委員会で説明したとおり建築基準法の改正に伴う地質調査の追加が必要となったことによるものである。別業者と競争させることもできたが、期間の関係とかなり価格的にも安くできることを踏まえて随意契約したということである。

委 員 長

他に質疑はあるか。(なし)(1)については報告済みとする。

(2) 住宅・建築物耐震改修等事業補助金関連調査業務の実施について

菊井室長

(別紙資料に基づき説明する。)

委 員 長

説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内委員外議員

建築基準法の改正により補助がいただける調査だが、補助の内容について現在明らかになっていれば伺いたい。

配野副主幹

改築事業に関しては、暮らし賑わい再生事業補助金が国土交通省から入ることになる。今回は別メニューの補助金ということであり、耐震改修事業に関しての補助で住宅・建築物耐震改修等事業補助金という名称である。平成19年度から建てかえにも補助が当たるようになったということである。条件としては、昭和56年以前の建物であること、全棟耐震診断をしなければならないこと、IS値という構造耐震指標が0.6未満であることを満たさなければならないことになっている。この条件をクリアすれば、耐震改修に要する積算結果が出る。これを暮らし賑わい再生事業補助金で補助対象になっている廊下、階段などの共用利用する部分があるが、この割合以外の部分を掛けた率をこの改修に要するであろうと積算された額に掛けることになる。例えば暮らし賑わいで20%が対象になると耐震改修は80%が対象になる。この80%を掛けたものが補助対象

	経費となる。3分の1が耐震の国庫補助金として出る。それが年割に応じて年度ごとに出るという中身である。
窪之内委員外議員 配野副主幹	調査が終わらないと実際に金額的なことはわからないということか。 耐震診断は3月末の終了予定としているが、それを元にどの程度出るのか積算することになる。
委 員 長 本 間	ほかに何かあるか。 簡易公募型指名競争入札ということで、オリジナル設計札幌事務所が落としたことになる。滝川市内業者は1社が入っていたということだが、ルール的には間違ったことは当然していないと思う。例えば1番の契約変更額を切り離してすることもできるということも話されたが、今後あらゆる契約は、工事に入っても付帯される部分だとかが出てくると思う。市内業者が余りにも参加できない状態に対してルールが存在するとはいえ、非常にどうにかしたいという気持ちがある。いわゆる指名競争入札の条件づけなどどのような手だてが考えられるのか伺いたい。
東 部 長	今回の改築は建てかえということなので、いくつか考えなければならないと思っている。1つはいい建物を選考すること、いかに安く上げることができるかということもある。そして市内経済に波及できることも一方で考える必要があると思う。公共という立場でいくと公平性、透明性の確保も必要である。最終的にはそれぞれルールにのっとって競争していただいて結果が出る。ルールが決まっているので工事の金額などによっては滝川市内の業者だけで競争になる場合もある。市外を含めて大きな競争になる場合もある。工事の分離発注について勉強中である。全体で皆さんが納得でき、公平性、透明性がしっかり保てる方法で進めたいと考えている。高等看護学院の移転改修関係、院内の改修などについては当然市内業者でできる金額であり、その対応を考えている。委員会にも方向性が決まったら報告したいと思っている。
本 間	いずれにしても現状の流れでは安価でいい建物を建てる。そしてなるべく市内業者でということである。安価で仕上げるということが最も重要なポイントであるかのようにになっているが、せっきくの大型工事であり。できる限り市内業者に対する配慮をしていただきたい。
委 員 長 山 口	ほかに何かあるか。 今の質疑に関連するが、市内業者との契約もあるが基本的に大きな契約を簡易公募型で行うことになる。設計事務所に委託して今から設計を始めるが、契約上の工事の中で物品購入などの設計段階で滝川の業者も何かできるような形で設計をお願いする姿勢が大事であると思う。注文主として小さな一つ一つのものに滝川の業者を何とか参加できるような形で設計してほしいとの意向を伝えるべきだと思うがいかがか。
東 部 長	設計業者と当初から打ち合わせをしている中では、価格が安くなるのはもちろんだが、やはり特定の業者でなければできないというのは極力やめていただき、いろいろな業者が参入できる仕組みをつくっていただきたい。それから維持管理についても特定技術がないとできないということも極力やめていただき、幅広くいろいろな業者が参入できるもので配慮していただきたいと話しているが、今後も確認したいと思っている。
委 員 長	去年の代表質問で山腰議員がこのことについて話をしている。落札率が60%で安ければ安いほどいいということになるのかもしれないが、予定価格というものはある程度専門家が見て予定した金額である。その中で耐震関係の事業は病

院だけでなく各学校の耐震もある。ほとんどが市外業者であり、どのような仕組みになっているのかわからないが、実際に滝川で対象となる業者がないのか。入札は6社ということだが、最低、最高の金額はどうなっているのか。指名する範囲は6社と規定されているのか。具体的な参加業者の名前はどうか。60%というのは最低の落札価格だが、ローリミットというのはあるのか。

東 部 長 今回の耐震調査の業者については、市の建築住宅課にお願いした経過がある。基本的には執行する能力があるかで判断している。市内業者では余り数がないということから1社になったと理解している。また、最低制限価格を設けるべきかについては制度としていろいろあるが、今まで滝川市が執行した中では設けていない。今後市立病院の改築時に最低制限価格を設けるかは品質保証の確保から検討していきたい。最高、最低金額については担当から報告させる。

菊井室長 その1の入札価格で一番高い業者が700万2,000円、落札業者が420万円。その2で一番高い業者は766万7,000円、落札業者が460万円である。

委 員 長 入札参加業者の名前は。

菊井室長 参加業者は、有限会社相田建築設計事務所、日本データサービス株式会社、株式会社コンスティック札幌支店、オリジナル設計株式会社札幌事務所、パブリックコンサルタント株式会社、株式会社総合企画設計札幌支店の6社である。

委 員 長 滝川で入札能力がある会社は1社だけなのか。

東 部 長 今回は簡易公募型指名競争入札である。告示をして公募してきたのが6社であり、その6社が入札に参加して競争した。市内1社以外で能力があるかないかについては明確にはわからない。応募してきたのが市内で1社であったということである。

委 員 長 ほかに何かあるか。(なし) (2)については報告済みとする。

(3)プロット図について

田中主幹 (別紙資料に基づき説明する。)

東 部 長 補足するが、今回いろいろ検討していく中で患者さん、面会に来られた方が一層使いやすい方法で考えることを視점에検討した。1階については前の図面では建物に入ってから非常に狭い感じがした。それからエレベータが通路の真ん中にある形状であり、使いづらいということからエレベータを壁側に寄せて広くすっきりさせたり、風除室についても少し広げることで車いすを配置して使いやすくするなど、特に1階正面の部分について主体的に手直しをした。2階については、変更前は講堂が完全に壁で仕切られており、講堂以外の使い方ができなかったが、利用頻度を考えると日中に常時使わない講堂とするより、患者が狭い病院の中で少し運動をしたり、休憩をするなど空間として開放し、利用できるように可動式の壁としてより利便性を高めるようにした。また、6階に循環器の病棟、精神科の病棟があり、7階に食堂、精神科の作業療法室があったが、精神科の患者が作業療法をする場合に食堂に来る一般の方と交錯するなどプライバシーの面から精神病棟については同じフロアに病室、作業療法室をかためる方が利用者の視点から必要ということで変更した。8階のペントハウスについては振動問題から空調機械室とした。

委 員 長 説明が終わった。質疑はあるか。

本 間 かなりの変更である。建物の上部である6階、7階、ペントハウスのところだが、以前は6階までH型であった。金額など加味していると思うが、例えば微妙な位置に食堂があり広さもどうかと思う。素人考えかもしれないが上階まですっきり立ち上げることを考えるのも一つの方法ではないか。そのような解決

策はなかったのか伺う。

東 部 長 当初から面積については、この程度という制限を設けて検討してきた。その中で形状的にもなるべくシンプルのほうが良いということもあり、6階までH型となった。ただ7階はどうしてもH型にならないので変更前も変型であった。利用者のことを考えるとH型のシンプルな形にするために逆に無理をした部分がある。精神病棟と一般病棟を1つにし、作業療法室を面積の制限上7階に置かなければならなかった。食堂利用者と作業療法室を利用する患者と交錯することになる。どちらを優先するかで従前も課題はあった。従前は形を先に検討していたが、本来の利用形態での課題が多くなった。変更にあたって構造的、面積的、維持管理的な部分で問題があるのか検討した。変型になるが影響が少ないことから利用者の視点でしっかり検討した結果である。

本 間 苦肉の策だというのはよくわかるが、建物は今のプランのためにその形を保つことはないと思う。シンプルな形状である当初プランのほうが将来的には価値があると思う。7階が小さくなってペントハウスができたが、面積の問題をどの程度重く見る必要があるのか。

東 部 長 先ほども説明したが、当初の計画と面積が変わったわけではない。それぞれの部分についてはしっかりと確保する中での変更である。一番問題となったのは、精神科の領域として同じフロアに作業療法室が確保できないことであった。従前のH型だとどうしても1フロアが2つの病棟だけでいっぱいになり、作業療法室と一つのフロアにできなかった。機械室についてもペントハウスではなく7階にしていたが、微振動の心配があり過去の建築物の実績から上の階にするべきと判断した。制約を優先したのではなく、利用される方の利便性を第一優先とした。変更により断熱、外壁、その他の部分でほとんど影響はないと設計業者の確認はとっている。

委 員 長 ほかに何かあるか。

田 村 各階の空白部分はリハビリも含めて利用を考えているのか。

東 部 長 2階はひさしの部分、右側はスロープと車のスペースである。3階以上は屋上部分である。患者さんが散策できるスペースとして考えたが、上階となるため危険防止をどう考えるか、北海道は雪も積もる、柵の設置も必要となるなど危険対策は難しい。そのこともあり2階の講堂を多目的ホールとして検討することとした。

田 村 空白部分を利用することを何も考えていない。マンションなどのように日差しを取り入れるならわかる。空白部分はたくさんあるが単なる屋上なのか。リハビリなどは外ではできないのか。

東 部 長 リハビリについては2階に確保している。また各病棟はH型であり周回もできる形になっている。屋上の部分については出入りできるようにすると危険性をどのような対策で防止するかという問題もある。また、人が歩くことになると屋上防水の方法も変わり経費の増額につながることになる。トータル的に考えると管理上難しいと考えている。

委 員 長 ほかに何かあるか。

山 口 使い勝手を現場の医師、看護師などと検討していると思うが、図面上で検討しているのか、CGなどを利用して検討しているのか。

田中主幹 院内でのヒアリングは、図面を部分的に拡大して寸法、壁、柱の位置などを説明し、医師、看護師などから使い方について聞き取りし、それを図面におとして再度協議をしている。

山 口 時代遅れなやり方をしている。簡単にできるはずなので、設計業者に要請をしたほうがいいのではないかと。食堂を変更して縮小しているが、必要なのかわるか。外来の方などにテーブル3つ程度の食堂がいるのか疑問に感じる。食堂をなくして周囲の商店街に考えてほしいといったほうが、まちづくりとしてはいいと思うがいかがか。

東 部 長 食堂の件については、いろいろと内部協議した。かつて院外処方をしていないときは、かなり待ち時間があつたということで食堂の利用が多かった。院外処方が主流になってから食堂の利用率も下がってしまったのも事実である。一方では食堂を利用されている方の要望もありなくすことにはならないと考えている。テーブルについては仮置きであり、3つがいいのか今後検討したい。一人での利用もあることから窓側にはカウンター形式のテーブルを設けたいと考えている。

委 員 長 ほかに何かあるか。

本 間 6階の微妙な位置、微妙な広さというのは、委託業者にとっても苦しい場所であると思う。外部のお客さんも来られるような考え方は存在しないのか。先日視察に行ったところで、増築して外からも入れるカフェを設置していた。駐車場の市役所側のところに1棟建てて食堂を設置することなども検討し、無理に6階に設置しなくてもいいと思う。他の選択肢を検討したのか伺う。

東 部 長 食堂の利用実態は、患者さんの利用はもちろんだが、職員の利用もかなりある。経営的には職員の利用がないと成り立たないこともある。現在の食堂は患者さんと職員が同じフロアで食事をしているが、職員は白衣であったり、診療の関係で時間がずれたりすることがある。最近の食堂は分かれて利用できることが主流である。当病院も厨房を真ん中にした形態を考えている。

本 間 基本的に厨房を真ん中にして一般の利用者と職員を分けるのは賛成である。職員利用が基礎的な収入になるのであれば見込みがつくことになる。一般、職員とも20席程度であるが、ここでは厳しいと思う。一番上だと見晴らしがいい、1階だと利便性があるなど、やはりどちらかでないと難しいとどうしても思ってしまう。ぜひ変更できるものがあれば十分考えて進めていただきたい。

東 部 長 意見として受けたい。いろいろと位置の問題もあるが診療することを第一として考えたい。

本 間 食堂は病院として必要ないとの考え方もあるが、ある部分ではコミュニティ施設という位置づけもある。また、おいしいものを格安で出すには売り込んでいかなければならない。委託業者が興味を持つような状態にしなければ苦しいものになる。

委 員 長 ほかに何かあるか。（なし）（3）については報告済みとする。

委 員 長 **2 その他について**
事務局からあるか。（なし）委員から何かあるか。（なし）
資料を机上配付しているが、議員会で苫小牧市立病院を視察する。特に苫小牧は滝川が設計している免震構造を取り入れていることもあり、視察まで勉強しておいていただきたい。

委 員 長 **3 次回委員会の日程について**
正副委員長に一任願えるか。（よし）
以上で第10回市立病院建替計画等調査特別委員会を閉会する。

閉 会 11:09